



校長室だより

自立に向かって「自分から」

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第19号 令和5年1月10日

小美玉市立美野里中学校

2023年もよろしくお願ひいたします

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、美野里中学校の教育活動に、深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

今年も、子供たちの登下校の安全確保、部活動改革、子供の発達段階に対応するための保幼小中連携など保護者・地域の方々のご協力なしには解決できない課題が山積しています。何卒ご支援の程、よろしくお願いいたします。

2023年は、十二支でいうと「癸卯（みずのと・う）」です。

「癸」は、「雨や露、霧など、静かで温かい大地を潤す恵みの水を表し、十干の最後にあたる癸は、生命の終わりを意味するとともに、次の新たな生命が成長し始めている状態を意味している」そうです。

「卯」は、「穏やかなうさぎの様子から安全、温和の意味とともに、うさぎのように跳ね上がるという意味があり、卯年は何かを開始するのに縁起がよく、希望があふれ、景気回復、好転するよい年になる」といわれているそうです。

その意味どおり、生命力にあふれながらも、穏やかで、希望のもてる年になればと思います。



さて、今回は「節目」について考えてみたいと思います。

小美玉市では、1月8日（日）に成人式に当たる「20歳のつどい」が行われました。人生にはいろいろな場面で「節目」というものがあります。

子供たちにとって、新年が節目になるのか、受験が節目になるのか、4月の新学期が節目になるのか、それぞれ違うとは思いますが、いずれにしても、1月からは「節目」を意識する時期です。

「節目」のときに、自ら意識することができるのが「リセット」ということです。

昨日までの自分は〇〇だったが、節目をもって〇〇な自分になっていこう

といったことです。私は、それがどんな形であれ、人間いつでもやり直しはきくと思っています。もし、思うところがあるならば、ぜひ新たな決意をもってみるのもよいと思います。

変化が生じる「節目」の時期にこそ、人間は大きく成長するものです。

苦しさや困難を伴うかも知れませんが、それに挑んだり、解決したりしていくところに「心の強さ」や「他者への理解・優しさ」が生まれるのだと思います。

我々大人は、子供が立ち向かう壁に恐れを抱くのではなく、力強く後押しをしたり、見守ったりしながら、一喜一憂よりも、子供たちの成長がどこにあるのかを見極める努力をすることが、何より大切なのではないのでしょうか。

今年も、子供たちが、豊かな人生を歩んでいけることを心から応援したいと思います。